
未来からの流れ星！？

ゆぐ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

未来からの流れ星！？

【著者名】

NZマーク

NZ8335B

【作者名】

ゆぐ

【あらすじ】

突如、タイムマシンに乗ってきたのは俺の未来の奥さん。一人の、
奇怪な暮らしが始まった。

プロローグ（前書き）

えー、他の小説更新しないで何やつてるんでしようねー。
まあ、そのうち、頑張ります

プロローグ

力チャ力チャ…。

無機質な機械音が大きな部屋によく響く。

「あと…、少しね！」

そこに無機質とは対照的な女性の高い声が、聞こえる。

「おーい、理緒ー？ 飯できるぞー？」

「はーい、あと少しだから待つてー！」

よし、こんなもんかな！

理緒と呼ばれた女性はそう呟き、大きな広い部屋から出て行つた。

「全く、タイムマシンなんて作つて何の意味があるんだ？」

退屈そうに、オムライスをほおぱりながら一人の男が聞いた。

「おいしいっ…やっぱり、あなたの料理は最高ねーー！」

「聞けよ」

息継ぐまもなく、男性はつっこんだ。

「ああ、タイムマシン？ そんなのたくさん、意味あるわよー！ 翼の過去を見たりとか…」

「絶対やめる」

「あら、見られたくない過去でもあるのかしらねー」

女性は挑戦的な目つきで翼と呼ばれた男性を覗き込んだ。

「い、いや、そういう問題ではない…。第一、危ないだろ。帰つてこれる保証もないんだし」

「あら？ 私を誰だと思つてるの？ 世界が認める美人博士よ？」

「うん、博士とは認めているが、美人とは…」
めこ…。

「あら、何か言つたかしら？ それじゃあ、研究の続きがあるんでー」

そう言つて、理緒という女性はスタッフと部屋を去つた。

「怪力博士の間違いだろ…」

顔面に見事に拳を入れられた翼といつ男性は、ふらふらしながらも食器の片付けに入った。

「ふう！大体、構造はこれでいいわねー。あとは、塗料を塗つて完成ねー」

翼の過去見てやる、と咳き無邪氣に笑う女性は、……こけた。
そう、ふいに。誰も予想しなかったように。そしてその手がスイッチまで届いてるとは…。

「へ？」ブー…、発射準備完了。

入力者の意思…、受信完了。

場所及び時間…、入力者の夫である、空谷翼の過去…。正確な時間は認識不可…。

機械の任意のものとする…。
発射します…。

「おーおーーー…やばい、やばいって！発射しちゃうじやん？でも、もひびつかることも出来にゃー…」

プツン！

理緒が話し終える間に、姿はこの場所からは消えていた。

第一話 未来からの流れ星！？

「翼ーー！？いつまで寝てるのーー？夏休みはもう終わってるわよ？」セミの声が朝から、四重奏、いや五重奏…、そんなものでは抑えきれない合奏を作り出している。

「わーつてー！」のまま、学校行つたりからー朝飯いらないつー！」

「ちよつと待ちなさい！2学期からは朝ごはん食べるつて約束したでしょ！それとも何かしら？私の作るご飯が食べられないとしても…」階段を駆け下りて玄関に向かおうとする、翼という男子は母親に襟首を捕まれ、そう言われた。

「さ、楽しい朝御飯の始まりだーい　いえいーーーって味噌汁熱っ！」

「あら、何か言つたかしら？」

満面笑みで答える母さん。

「味噌汁熱いつてーいま9月じゃん！」

「え…、なに、じゃあ、あんたは冷たい味噌汁が飲みたいと…そついつことねつー！」

「なんで、あんた切れるんだよー、ああ、もつこいつー学校行きますー！」

俺はそつこいつて、家を飛び出した。

俺は、普通の高校生。

普通の学校について普通に暮らしている。趣味は料理、というか、母親の影響95%。

ん、俺が料理しないと、玄谷家崩壊しちゃうから。お父さんは、今までよく頑張った。

だって、涙目で「母れ…おこしよ」だって言つたらしいから。（

母親談）

なんか、うまく「おいしい」って言えてないし。

まあ、（若干）家族に問題はありながらも平和に毎日を暮らしているつていう訳であって。

ブツン！

どつかーん！

脳内回路停止。（日本語になつてないよね。）

だって、目の前にいきなり鉄の塊。

しかも、周りに人もいないし…。逃げるか？どうする？

でも、エイリアンとかだったら、逃げても瞬間移動！とかされたら意味ねえぞ…。いや、マジで。

「いつたあーい！なんでこんな揺れるのよ、私の設計にミスなんて…」

脳内回路停止バージョンツー。（再び）

だって、なから作業着た女の子だよ？

小学生には見えないけど、よくて中学生。もつ訳分かんない。ってか、人間なのか？

「あ、に、人間！？」

「いや、あんたが人間なのかよ！」

先手取られたー！しかも日本語かいっ！

「あ！つ、翼？ほ、本当に？わー。面影あるなあーー可愛いっ！」

「な、なんで名前知ってるんだよ！つていうか、あんたみたいな女の子がなんでこんな意味不明なものを…？」

「名前はおいといて、お、女の子？わ、私、そんなに若く見えるかしら…」

そういうて、その女性は顔や髪を触りだした。

「つていうか、そのまま女の子だから」

俺は一番近いところから突っ込もうと思い、手鏡をそのままの女子に渡した。

その女の子はその鏡を見て、いの一番に叫んだ。

「い、これ誰！？ねえ、翼、これ誰！？」

「あんたしか、その鏡には写つてねえよ！」

そして、その女の子は急に真面目な顔になつて考え始めた。

「あ、あの大きな揺れ、まさか時空の狭間が揺れて…、え、でもそ

んなこと理論的に考えられないわ…。でも実際には…」

ぶつぶつと一人で呟き始めてしまつた。

「ねえ、ひとまずこんなところじゃ見つかるから、場所を変えようよ？そこで話は聞くから」

「あら、あんたこんな小さくて可愛い子を誘惑するのね！？全く、そんな…」

「さて、学校行こうかな！」

「いめんなさい、助けてください」

即座にその子が謝った姿が可愛かつたので、ひとまず一人で近くの林に行くことにした。

ふむふむ…。何でもその子の話では、未来からやつてきた俺の奥さんだつて。何だそりや。

「私みたいな可愛いこと結婚できて幸せでしょ？」

無視。つつ一つうか、中学生つて…こぐら俺でもそんな口ココンドはない。

そのことに関しては、彼女も良く分からないらしい。次元が歪んで、体の年齢が変わったとか…。ちなみに名前は理緒。

「で、理緒…、お前は帰れないのか？未来に」

「うーん、そうね…。結構、厳しいわ。こっちに来る分の燃料しか積んでなかつたしね…」

「なんで、そんな状態で来たんだ？」

「なんていふか…、ハプニングなのよねえ…」

頬をかきながら、彼女は言った。

「ふう、じゃあひとまず、どうする?」

「じゃあ、一足早く、結婚をし」

「学校行こうかな」

「冗談です……」

「やれやれ……、こいつは、あながち冗談じゃねえ……。

マジで行き詰つてもんなん。第一、未来の燃料なんて、現代にあ
るはずがない。

「ねえ……、ひとまず私……」

「なんだよ? 言つてみろよ」

「学校行きた!」

「こきなり、それはおかしいだろー! っていうか、帰れなくてもいい
のか?」

だんだん、一人のコントみたいになってきた。勘弁してくれ。キャラ
クターが違う。

「んー……、私の目的は翼の過去を見ようと思ったからなの。だから、
ひとまずはそうしようかなって」

「俺の過去? いやいや、ややこしくない? つまり、未来の俺の過去? 何でだ?」

「その点に関しては教えることは出来ないわね、歴史を変えること
につながるから」

「む……、それなら……。つていうか、「俺を見る」つて具体的に
どうする気だ?」

「わうねー……、そこまで考えてなかつたわね。まづ、寝泊りはタイ
ムマシンであるわ。こ飯も、タイムマシンで出来るし……」

話がつながらないのは、もう慣れました。

「そういうことじゃなくて……、普段はどうゆの気なんだよ?」

「あら、一緒に学校に行くに決まってるじゃなし」

「おいおい! お前、明らかに中学生以下じゃないか? 俺は高校生
だぞ?」

「私も高校に行くわよー、どうせ年齢なんてわかんないしね

いや、無理でしょ。そんな顔や体躯で。

「大丈夫よ、私にはこの頭があるからね。入学テストで受からない高校なんてないわ」

「だから、そういう問題じゃなくて！体の問題だよー！」

「か、…体ですって…！？」

あ、しまった！これは流れ的にタブーだ。

「わ、私の体がそんなにお気に召さないかしら！？た、確かに、それは事実だけど…、でも私だって…」

独り言を勝手に咳きだしてしまった、もう知らないうと。

こうして、俺と俺の未来の奥さん（中学生ｖｅｒ）という、奇怪な暮らしが始まつたのでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8335b/>

未来からの流れ星！？

2011年1月18日04時14分発行